



世界でいちばん毒が強い動物は何なの

いちばん強いのは、毒ガエルの毒

人間にとって、いちばん強い毒といわれているのは、中央アメリカや南アメリカにすむ、ヤドクガエルの仲間が、皮ふから出す毒といわれています。赤や黄、緑と美しい色をしたカエルです。特に強いのは、南アメリカのコロンビアにいる体長4センチメートルぐらいのヒイロヤドクガエルが出す毒で、1てきで、大人の人間を殺せるということです。インディアンは、昔から矢の先に、このカエルの毒をぬって、獲物をとらえるのに使っていました。毒には、神経や筋肉をおかしくさせ、動けなくする成分が入っているのです。

ヘビの毒は、血清があれば助かる

コブラや、ガラガラヘビ、沖縄に多いハブなどの毒ヘビの毒も、強力です。ヘビにかまれて死ぬ人が世界でいちばん多いスリランカなどは、毎年、800人ぐらいが、死んでいます。でも、今は、かまれた後でも、ヘビの血清(ヘビの毒から作った、毒の作用を弱めたり消したりしてくれる薬)があるので、命が助かることが多いのです。

サソリの毒も 強力

人間もさされたら死ぬことがある毒を出すのは、サソリの仲間です。アフリカのチェニジアにいる、しっぽの太いフトオサソリは、服やくつの上からも、毒針を通してしまうおそろしいサソリですが、やはり血清があれば、だいじょうぶです。メキシコでは、今でも、毎年、1000人ぐらいが、サソリにさされて死んでいます。

毒を出す動物はたくさんいますが、イヌやネコだけとか、ネズミが死ぬなど、ほかの動物には危険な毒でも、人間には害がないものもあります。(監修・今泉 忠明)

